

公的施設としてのびわ湖ホールの存立、あり方、運営についての評価の研究  
「びわ湖ホールと滋賀県における文化芸術の振興に関する調査」の分析結果から－  
受託研究報告書

2009年1月31日

立命館大学政策科学部教授

村山皓

はじめに

この報告書は、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールが開館から10年目を迎えるとともに、滋賀県の文化政策の一環としてのびわ湖ホールの事業の公的意義への関心が高まる中で、びわ湖ホールのこれまでの取り組みへの客観的評価の資料を得るため、同ホールの指定管理者である財団法人びわ湖ホールから立命館大学衣笠総合研究機構（研究者：同大学政策科学部教授 村山 皓）が研究委託を受け、作成したものである。

今回の受託研究のテーマは、「公的施設としてのびわ湖ホールの存立、あり方、運営についての評価の研究」であり、専門的見地から、びわ湖ホールの文化的、社会的、経済的効果の分析を行い、評価の一助とすることを主な目的としている。

この報告書では、主として、滋賀県民を対象に2008年10月17日に16問の質問票で実施した「びわ湖ホールと滋賀県における文化芸術の振興に関する調査」で得られた428サンプルのデータの分析結果から、びわ湖ホールの文化的、社会的、経済的効果および運営についての評価に注目した。この調査における回収率が36.8%であったことは、近年のアンケート調査の状況から言うと、郵送による送付・回収調査としては高い回収率になっている。調査の質問内容がかなり難しいものであるにもかかわらず、このような回収率の高さは、文化に関わる政策への県民の関心の高さを示していると言えなくもない。この県民調査に加えて、別途実施された全国調査（2008年12月社団法人中央調査社）のオムニバス調査に組み込んだ数問のデータ分析も参考にし、さらに、文化政策の専門機関の見解や行政施策評価の専門機関の手法をも考慮して、この報告書は作成されている。

行政の施策や事業についての評価にはさまざまなアプローチがあるが、その経費が最終的には住民の税金でまかなわれていることから、住民の意識を基盤にした評価は極めて重要である。従来より行われている県民の満足度の高さのみを直接に考慮するような方法では十分な評価を得られるものとは言えず、満足に注目しつつも、どのように人々の意識を分析するかが重要となる。また、費用対効果のような客観的な資料による効率性の評価はアプローチとしては簡単であり、必要でもあるが、そのような経済的な視点であっても、納税者である県民の意識を通してどのような効果をもったものであるかを知ることが、たとえそのアプローチが困難だとしても、求められるところである。そのために、評価に役立つ県民の意識の調査には、かなり踏み込んだ質問内容が必要であると同時に、比較のた

めに質問の対象項目にも広がりが必要である。

びわ湖ホールについては、来場者の集計データなどはすでにあり、来場者を観光客と見立てた経済波及効果の分析などはすでに行われている。しかし、それらの従来のものでは、滋賀県の財政状況がひっ迫しているなかで、財団法人びわ湖ホールの指定管理料などの説明が十分に果たせない面もあることから、この研究では、びわ湖ホールを県民への説明責任の視点からどのように評価できる可能性があるかを探求することにした。全県民を母集団とする調査の実施には困難も多いなかで今回の調査では、財団法人びわ湖ホールの協力等により、県民の意識を考慮したびわ湖ホールの評価を行えるデータが得られたことを、ここに記しておきたい。

## 1. 評価に使用した調査

### (1) 「びわ湖ホールと滋賀県における文化芸術の振興に関する調査」について

調査の概要は次のようなものである。郵送による送付・返送回収のこの調査の質問票の実施日付は2008年10月17日であり、返送予定日は10月31日までであった。サンプルの抽出は、滋賀県全域を対象地域とし、26市町ごとの人口比による有権者名簿を用いた層化無作為抽出である。添付資料(1)に16問からなる質問票がある。

送付数 1232通(10月23日に570通発送、24日に662通発送)

返送回収総数 453通

有効回答者数 428 (確定分析データ)

白紙など無効回答 20

期日後回収数 5通(11月20日以降に到着)

(参考経過)

送付後未着数 29通(10月31日までに返送受領)

督促状発送数 1203通(11月1日から3日に発送)

督促状返送数 5通

回収率 36.8%(サンプル数 1232、回収数 453)(有効回答率 34.7%)

この調査は、サンプリングなど、社会調査の手法にのっとったものであり、その分析結果は、母集団を統計的に推定できるような、信頼に足るものである。しかし、調査票に財団法人びわ湖ホールを調査主体として明記し、びわ湖ホールの封筒を用いたこの郵送送付、郵送回収の調査は、回答していただいた県民には、びわ湖ホールへの関心が比較的高いという偏りがあることを念頭においておく必要があるかも知れない。その偏りは、社会調査に積極的に回答する人々が示す態度の偏りも含みつつ、以下のような回収サンプルの特徴

を示すが、回答に見る頻度の数値そのものではなく、回答項目間の関係に注目して分析を試みるここでの評価にとっては、特に支障となるものではない。むしろ、比較的関心のあ  
る人々の意識の分析から、効果の評価および施策展開のための視点が得られる利点の方が  
大きいと言えるだろう。

#### 標本構成

地域	地域計
大津地域	300
南部地域	272
甲賀地域	133
東近江地域	203
湖東地域	132
湖北地域	144
高島地域	48
合計サンプル	1,232

性別	年代	人口	構成比	標本数	構成比
男性	20代	93,731	8.6	82	6.7
	30代	102,239	9.4	111	9.0
	40代	84,892	7.8	105	8.5
	50代	100,028	9.2	105	8.5
	60代	76,690	7.1	110	8.9
	70歳以上	72,365	6.7	94	7.6
	小計	529,945	48.8	607	49.3
女性	20代	87,217	8.0	83	6.7
	30代	99,074	9.1	103	8.4
	40代	85,441	7.9	102	8.3
	50代	99,274	9.1	102	8.3
	60代	78,062	7.2	110	8.9
	70歳以上	107,631	9.9	125	10.1
	小計	556,699	51.2	625	50.7
	合計	1,086,644	100.0	1,232	100.0

\* 人口は平成 17 年国勢調査結果。

## (2) 「オムニバス全国調査」について

この全国調査は、社団法人中央調査社が実施しているオムニバス調査に、2問を載せることで実施した。調査の概要は次のようなものである。添付資料(2)に実施した質問票から、この報告書に使用した1問を示しておく。

### 調査設計

- 1) 地域 全国
- 2) 調査対象 満20歳以上の男女
- 3) 標本数 4000
- 4) 抽出方法 層化副次(三段)無作為抽出法
- 5) 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- 6) 実施期間 2008年 12月5日から14日

### 回収の結果

- 1) 回収数(率) 1261(31.5%)
- 2) 回収不能数(率) 2739(68.5%)
- 3) 回収不能内訳

転居	125
長期不在	23
一時不在	905
住所不明	9
拒否	1095
その他	582

## 2. びわ湖ホール存立の評価「県民はびわ湖ホールの存在をどのように認識し、どのように利用しているか」

### (評価結果)

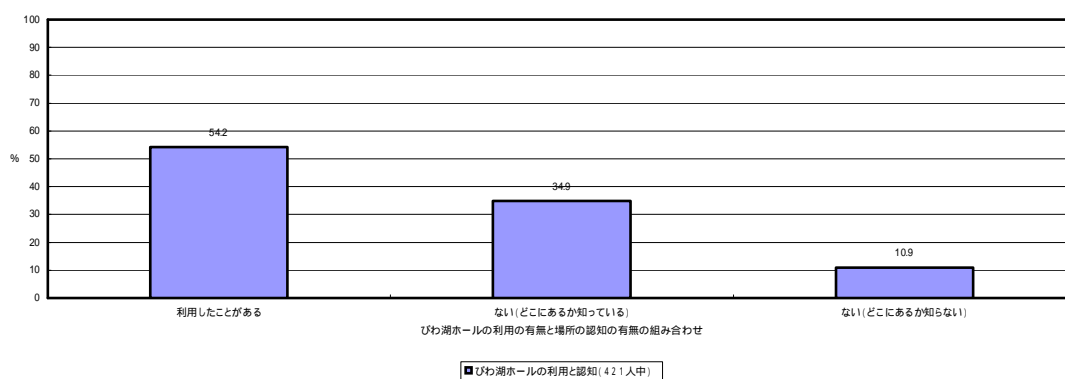
びわ湖ホールの催しの中心となる音楽や演劇、舞踊(以下「舞台芸術」という)への滋賀県民の関心(一般的に舞台芸術に出かける割合)が、映画や美術に比べて相対的に低い中であって、滋賀県民のびわ湖ホールへの認知度は希望が丘文化公園、琵琶湖博物館について高く、利用度も比較的高い。このことより、県民にとってびわ湖ホールの存在感は大きく、県民はホールへ一定の存在意義を感じていると評価できる。

### (分析と解釈)

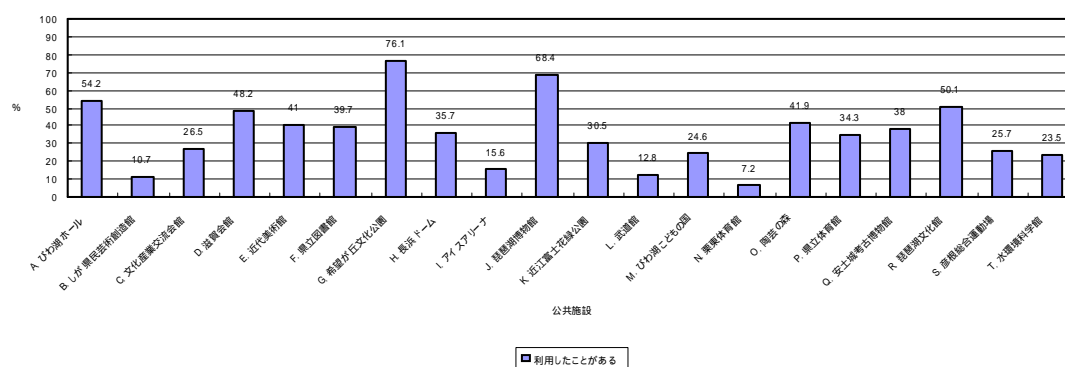
次の図は、この「びわ湖ホールと滋賀県における文化芸術の振興に関する調査」が示すびわ湖ホールの存立への滋賀県民の態度を表している。存立として、人々によるびわ湖ホ

ールの利用度とびわ湖ホールの存在場所の認識（存在感）の両者を見ている。54.2%の利用度はかなり高いと言え、そこには、びわ湖ホールの催しの中心となる舞台芸術以外の利用も含まれ、場合によっては、レストランなどへの立ち寄りなども含まれているかも知れない。さらに利用していなくてもどこにあるかを知っている34.9%を加えると89.1%がびわ湖ホールの存在場所を知っており、びわ湖ホールの存立が、県民に浸透していると評価できる。そのことは、県の他の文化・レクリエーションの公共施設の利用度および認知度との比較の図において、希望が丘文化公園、琵琶湖博物館について利用度が高いことにも表れている。

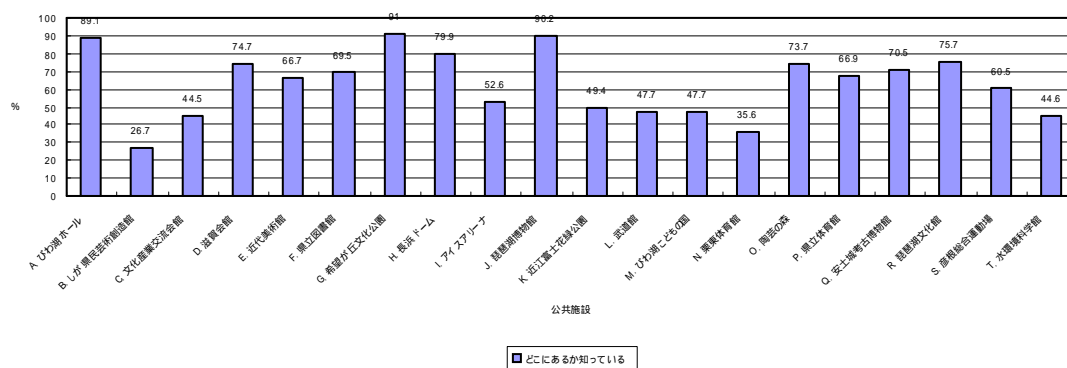
びわ湖ホールの利用（この調査に回答した県民による）



滋賀県の文化・レクリエーションの公共施設の県民の利用

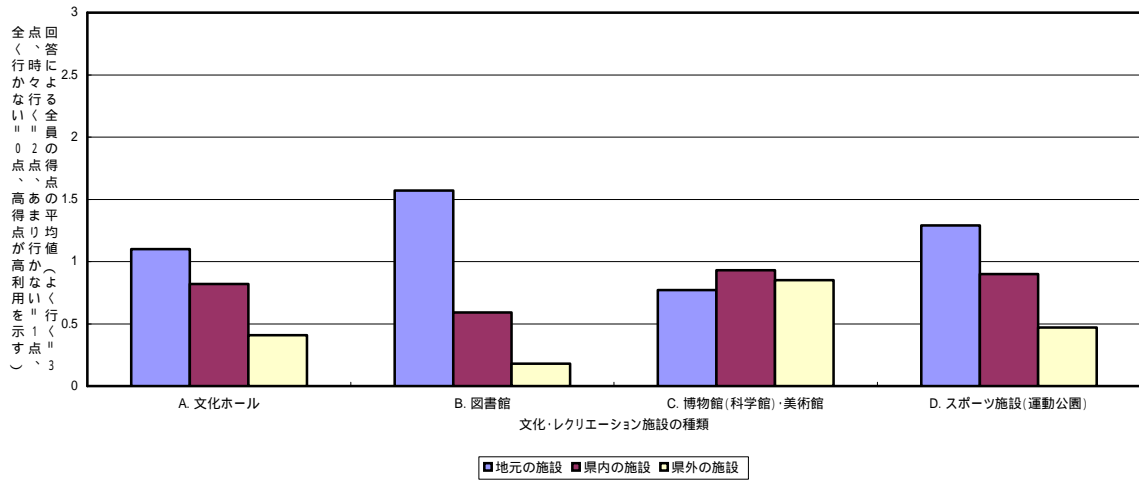


滋賀県の文化・レクリエーションの公共施設の県民の認知

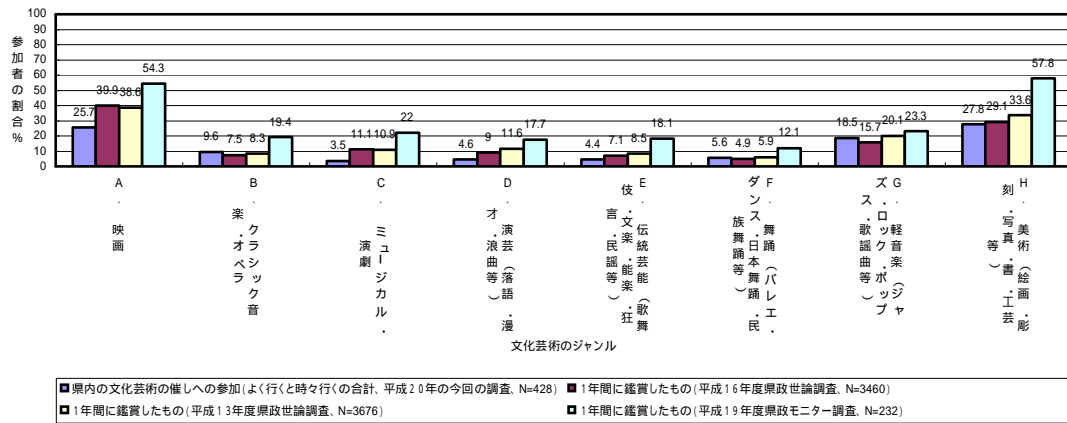


このようなびわ湖ホールの存立の県民への浸透も、びわ湖ホールの催しの中心となる舞台芸術への滋賀県民の関心（一般的に舞台芸術に出かける割合）が低い中でのものであることに注目する必要がある。県民による文化ホールの利用度は、図書館、博物館、スポーツ施設に比べて、特に低いわけではないことは、次の最初の二つの図が示している。しかし、びわ湖ホールの催しの中心となる舞台芸術への滋賀県民の参加状況は、B C Fを合わせても、さほど参加への関心が高いとは言えない。B C Fのいずれにも参加していない場合を0点とし、いずれかに参加している場合を1点、二つに参加している場合を2点、三つに参加している場合を3点とすると、全く参加していない者が87.5%、ついで9.0%、2.0%、1.6%と、このような舞台芸術の催しに行ったことのある県民は12.6%に過ぎない。そこには、びわ湖ホールへ行ったことのある人が54.2%いることとの齟齬がかなり大きい。さらに、びわ湖ホールの貸館で催されてるジャンル(B C E F G)を含めても、びわ湖ホールの利用度との齟齬は一定存在すると言える。それは、県民にとってのびわ湖ホールの存在感や利用度の高さが、びわ湖ホールの催しの中心となる舞台芸術に直結するものではないことをうかがわせる。そこでは、県民が催しものに行くことに直接には結びつかないが、びわ湖ホールが目指す質の高い舞台芸術の催しが、びわ湖ホールの存在感を県民にもたらし、ひいては、県民にとってびわ湖ホールの存立の根拠となる芽が、その齟齬の中にあることに注目する必要がある。それについては、順次、明らかにする。

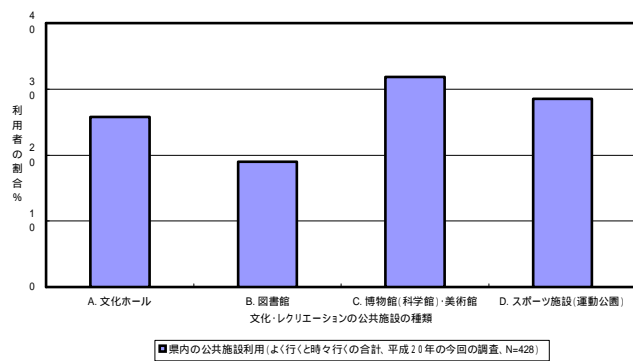
県内外および地元の文化・レクリエーションの公共施設の県民による利用の比較(平成20年の今回の調査、N=428)



県内の文化芸術の催しへの参加

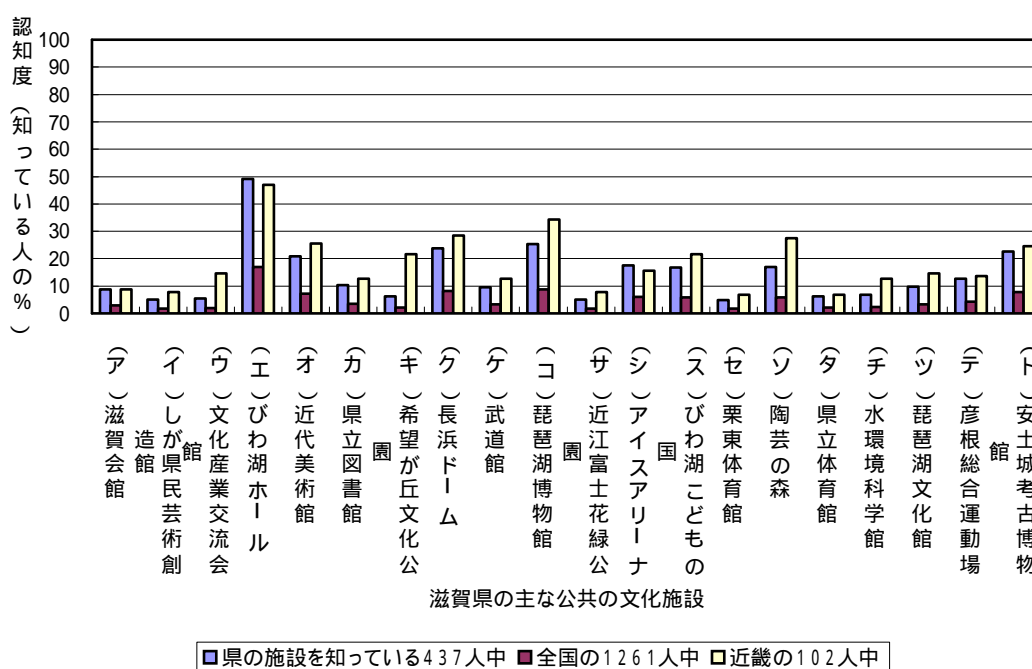


県内の文化・レクリエーションの公共施設の県民の利用状況



なお、びわ湖ホール存立の効果については、全国調査の分析結果から、次の図のように、びわ湖ホールの知名度が、滋賀県の公共施設の中では圧倒的に高く、琵琶湖博物館よりも上回っていることが注目される。さらに、設立年次を考慮すると、他の類似の公共施設に比べて、その新しさ（1998年9月開館）にもかかわらず、その知名度は群を抜いていると言える。そのことは、これまでのびわ湖ホールの活動がもたらした大きな効果と捉えることができる。この効果を失わないような、これまでの施策展開の利点を生かした今後の施策展開が望まれる。

滋賀県の公的な文化施設の認知度



### 3. びわ湖ホールの効果の評価「びわ湖ホールの県民への文化的、社会的、経済的効果はどのようなのか」

(評価結果)

びわ湖ホールが滋賀県民にもたらす効果は、プロの歌手や劇団の公演を通じて、質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会を県民に提供し、音楽や演劇の楽しさを伝え、県民の文化や芸術を見る目を育てることにある。県民は、このように、びわ湖ホールがもたらす一般的な効果捉えており、びわ湖ホールが目指す質の高い舞台芸術の提供が、それに見合う一定の効果をもたらしていると評価できる。

なお、県民への説明責任を果たし得る効果としては、文化的効果、社会的効果、経済的効果の順となっており、投資額より大きい経済波及効果があることを数値で示しても、税金の支出に対する県民の理解を得られる可能性は、相対的に低いと言える。



#### 文化的効果について

県民は、びわ湖ホールへの催しの中心となる舞台芸術がもたらす高度の文化芸術こそが、びわ湖ホールの文化的効果と考えているようであり、そのような文化的効果が、社会的効果や経済的効果より県民に受け入れられている側面がある。このことは、質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会を提供するところとしてのびわ湖ホールへの満足が、県民に文化的効果をもたらす傾向にあると評価できる。

#### 社会的効果について

びわ湖ホールが、県民に音楽や演劇などの文化芸術を発表する機会を提供することが、県民の満足につながっており、その満足が、質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会とともに実現できるなら、県民への社会的効果がもたらされる傾向にあると評価できる。

なお、相関分析結果からは、社会的効果への県民の認識内容が明確であるとは言えず、びわ湖ホールが地域社会との連携として意図してきた社会的効果だけでは、県民にとって十分ではなく、文化的効果もその要素に含むような社会的効果を目指すことが求められるだろう。

#### 経済的効果について

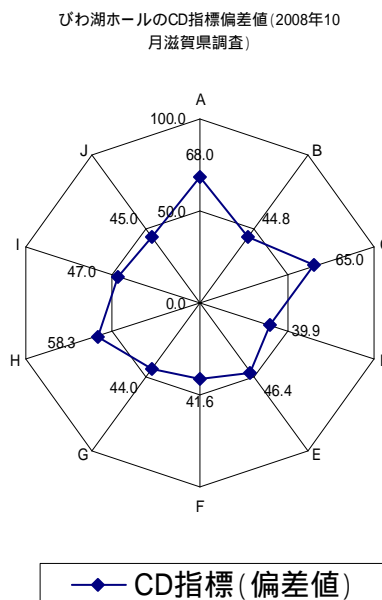
プロの歌手や劇団が公演を行うところとしてのびわ湖ホールへの県民の満足が、経済的効果をもたらす傾向にあると評価できる。県民のびわ湖ホールへの評価については、精神的なものへの貢献に意義があると思われるしており、経済的な意義はさほど重視されていない。もっとも、びわ湖ホールの運営面における経済効率については、県民は注目していると言える。

#### (分析と解釈)

次のいくつかの図は、「びわ湖ホールと滋賀県における文化芸術の振興に関する調査」が示すびわ湖ホールへの滋賀県民の意識からわかるびわ湖ホールの効果である。問10におけるAからJの10種類のびわ湖ホールの役割について、これまでの役割への満足とこれからの役割への期待から効果を測る。役割への満足は、これまでの施策として目指された役割への満足度としての評価の指標となり、役割への期待は、今後の施策として目指す役割への期待度としての評価の指標となる。さらにここでは、この満足指標と期待指標を合

成したCD指標（行政施策の事務事業評価の指標としてシンクメイトリサーチが開発し、特許申請中）を用いた総合的な施策評価を、びわ湖ホールの施策として想定されるAからJの施策について、県民の意識を用いた評価を行っている。CD指標は0から1の値をとり、1が高い評価を示すが、ここでは比較しやすいように偏差値のCD指標を用いた。CD指標の計算式は、役割への満足の有無と役割への期待の有無の組み合わせから、満足も期待もしない傍観者、満足も期待もしている首肯者、満足だけしている過去志向者、期待だけしている将来志向者の4タイプのタイポロジーから、各タイプの割合を考慮して計算する。

びわ湖ホールの施策展開への県民の評価は、A.質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会を県民に提供するところ（CD指標偏差値68.0）、C.プロの歌手や劇団が公演を行うところ（CD指標偏差値65.0）、H.音楽や演劇の楽しさを伝え県民の文化や芸術を見る目を育てるところ（CD指標偏差値58.3）で高く、それらの点に、びわ湖ホールの効果があると言える。そのことを次のレーダーチャート図が示している。そこでのタイポロジーの詳細や過去満足者と将来期待者の割合の比較も、続く図で示している。

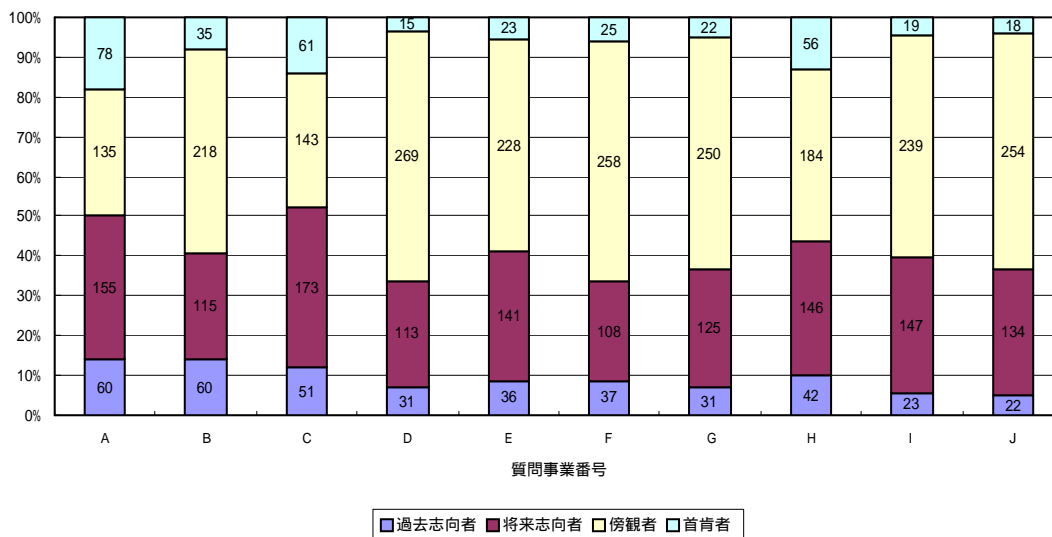


**問 10** びわ湖ホール 次の役割についてお聞きします。あなたは、これまでにびわ湖ホールが果たしてきた役割に満足していますか。また、今後、それらの役割に期待していますか。満足していること、あるいは期待していることをすべてお選びください。

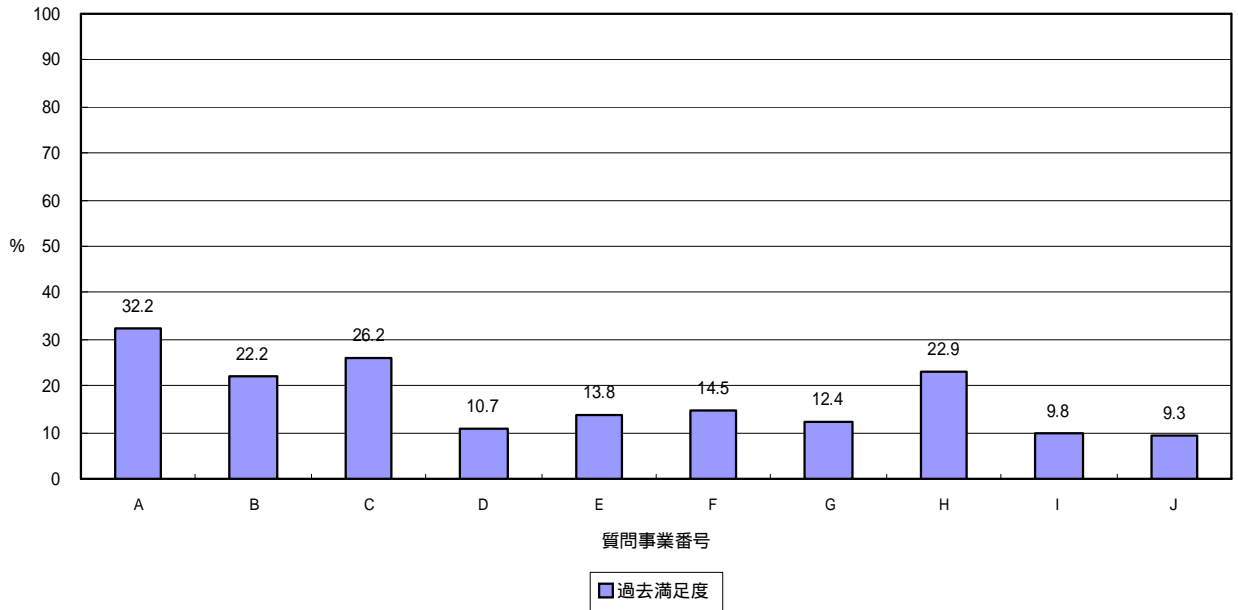
(A から J の満足と期待それぞれについて 印はいくつでも可の複数回答形式。満足と期待の両方に 印がつくことも、両方に 印がつかないこともある)

問 10 と問 11 の A から J は同じです	これまでへの満足	今後への期待
A. 質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会を県民に提供するところ		
B. 県民が音楽や演劇などの文化芸術活動を発表するところ		
C. プロの歌手や劇団が公演を行うところ		
D. オリジナルな舞台作品の制作など芸術が創造され発信されること		
E. 県民の文化芸術活動を支援するところ		
F. 芸術家に活動の場を与えたり支援したりするところ		
G. 文化芸術についての情報を集めて県民に提供するところ		
H. 音楽や演劇の楽しさを伝え県民の文化や芸術を見る目を育てるところ		
I. 生涯学習の場として県民が文化芸術活動に参加するところ		
J. 県内のいろいろな地域の人々が文化芸術活動の交流を行うところ		

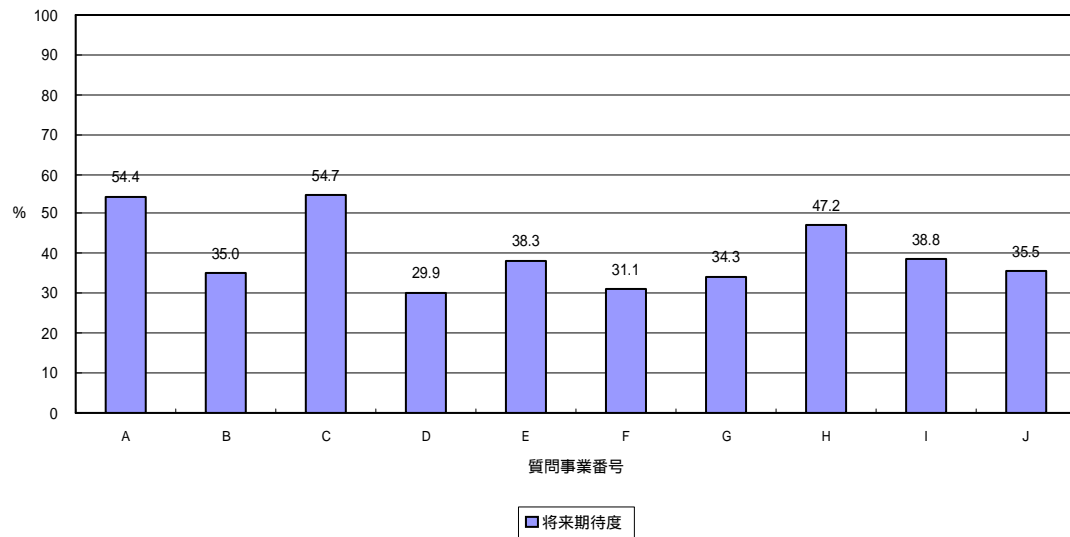
びわ湖ホールの4タイプの分布(%)2008年10月滋賀県調査



びわ湖ホール過去の満足度(2008年10月滋賀県調査)



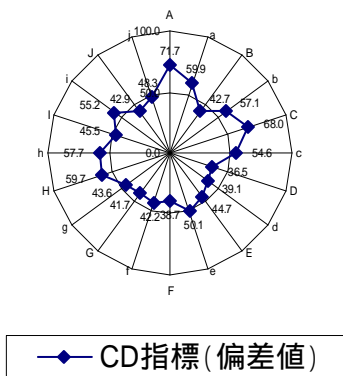
びわ湖ホールの将来期待度(2008年10月滋賀県調査)



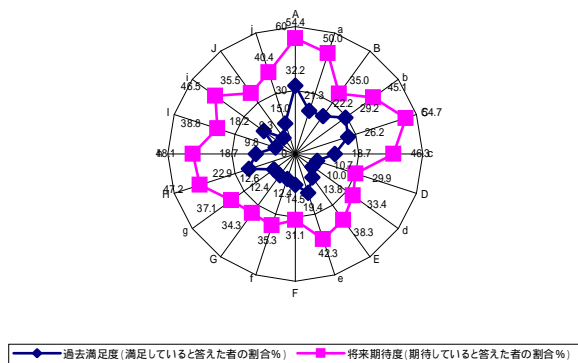
びわ湖ホールは、滋賀県内にある他の多くの市町立ホールとは異なった性格を有している。世界水準のオペラの公演など、質の高い舞台芸術の催しなどの特徴を持つびわ湖ホールが、市町立ホールとどのように異なる捉え方をされているかは、びわ湖ホールの評価にとっては重要である。そこで、びわ湖ホールについての問10(大文字)と同じ項目につ

いての問11(小文字)の市町立ホールについての同様の質問結果を比べたのが次の図である。最初のレーダーチャート図から、同じ項目でのびわ湖ホールの特徴が、市町立ホールとの比較で分かる。びわ湖ホールだからこそそのものとして評価の高い項目は、AとCであり、びわ湖ホールだからこそ効果が低いのは、BとIである。つまり、びわ湖ホールの効果は、A.質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会を県民に提供するところ、C.プロの歌手や劇団が公演を行うところとしての効果がある反面、B.県民が音楽や演劇などの文化芸術活動を発表するところ、I.生涯学習の場として県民が文化芸術活動に参加するところとしての効果が低い現状にある。それが、びわ湖ホールの特徴として良しとするか、BとIでの改善を目指すかは、今後の施策展開としての検討課題であろう。先の分析と合わせて考えるなら、びわ湖ホールの文化的効果としては、もっぱらAを目指し、Cを目指す点で経済的効果を模索し、Aと並行してのBとIの展開をどのように図るかで、社会的効果の増進を考えられる可能性はある。二番目のレーダーチャート図は、そのようなびわ湖ホールの効果の現状を、過去満足度と将来期待度について、市町立ホールとの比較をも視野に総合的に示している。加えて、それらのタイポロジーと満足、期待でも比較できる図も示しておく。

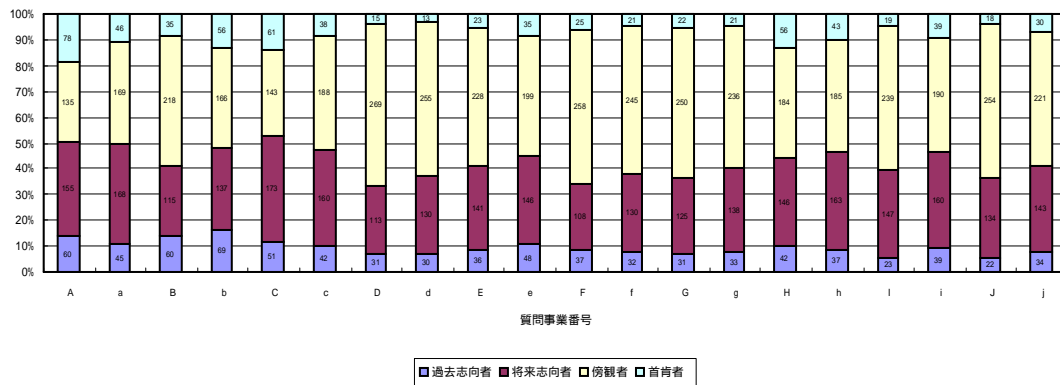
びわ湖ホールと市町立ホールのCD指標偏差値(2008年10月滋賀県調査)大文字はびわ湖ホール、小文字は市町立ホールの質問事業



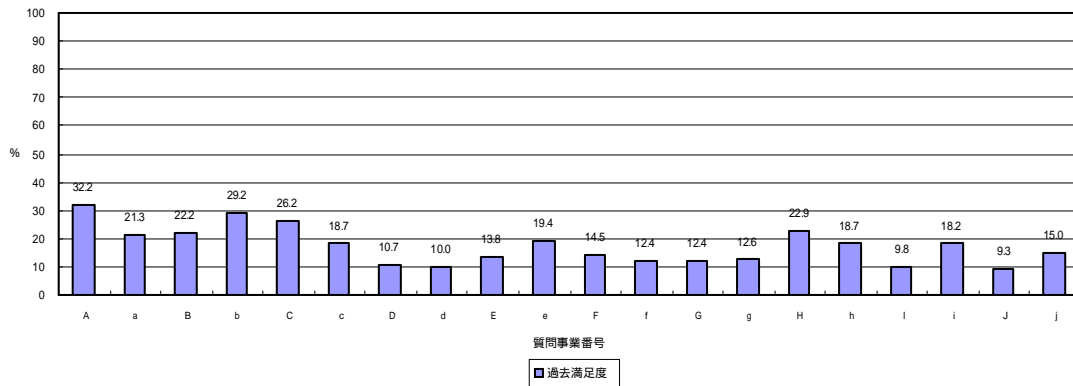
びわ湖ホール(大文字)の役割(施策)と市町立ホール(小文字)の役割(施策)への県民の満足と期待の比較



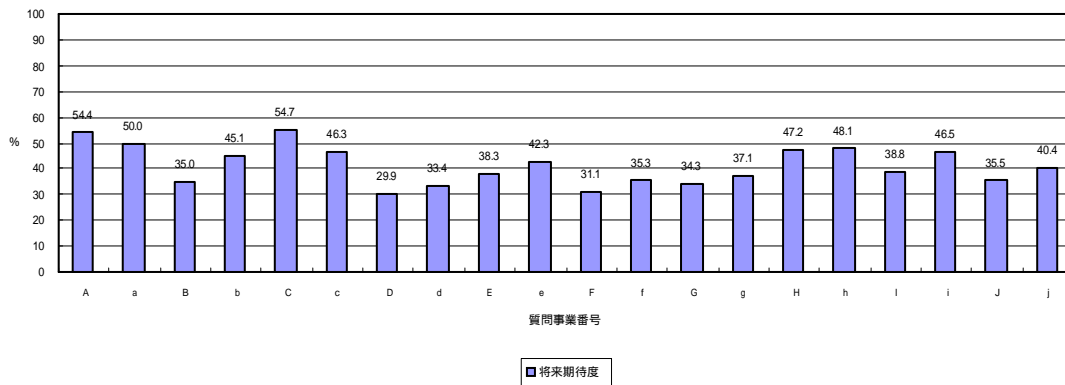
びわ湖ホール4タイプの分布(%) 2008年10月滋賀県調査(大文字はびわ湖ホール、小文字は市町立ホール)



びわ湖ホールの過去満足度(2008年10月滋賀県調査)大文字はびわ湖ホール、小文字は市町立ホール

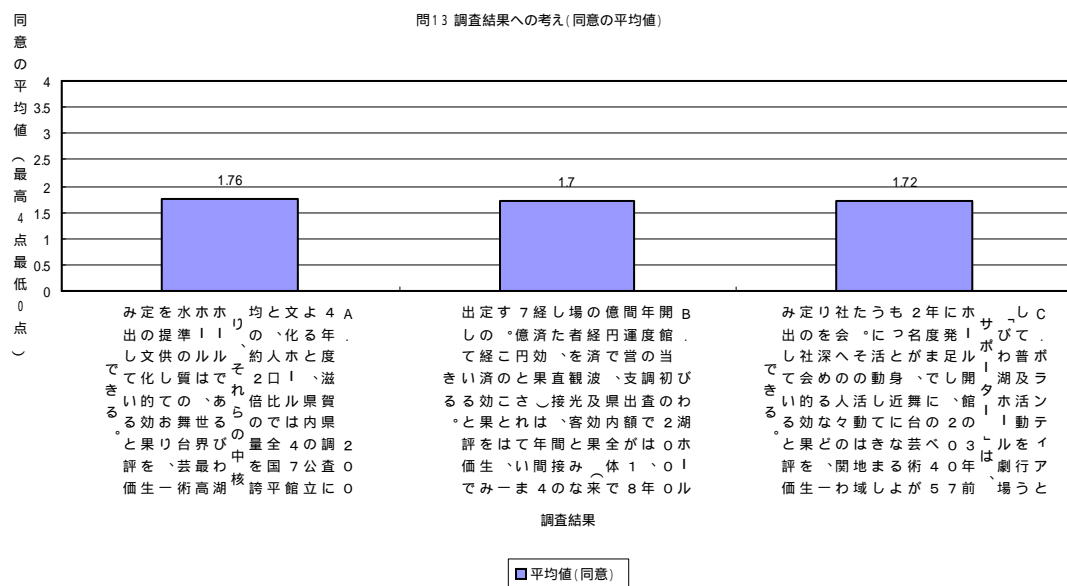


びわ湖ホールの将来期待度(2008年10月滋賀県調査)大文字はびわ湖ホール、小文字は市町立ホール



びわ湖ホールの文化的効果と社会的効果と経済的効果について県民がどのように区別し、その効果の強弱にはどのような違いがあるかを見てみよう。問13は、数値を例示し

て、びわ湖ホールは、文化的効果と社会的効果と経済的効果が、県民の評価に関わってどのように説明責任を果たしうるかを探るものである。詳細は後の他の質問との関係をも考慮した総合的な分析に譲るが、説明責任を果たしうる効果は、文化的効果、社会的効果、経済的効果の順であり、投資額より大きい経済波及効果があることを数値で示しても、税金の支出に対する県民の理解を得られる可能性は、相対的に少ないことを示していると言えるだろう。

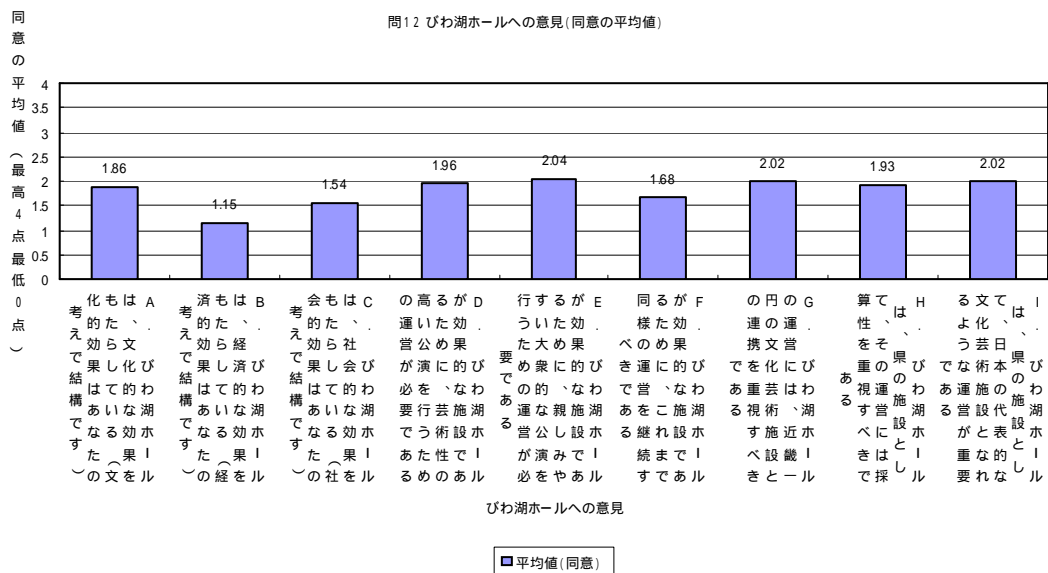


**問13** びわ湖ホールについて、これまでに以下のような調査報告が示す活動がなされてい  
ず。それぞれについて、あなたの考えをお聞かせください。  
(AからCのそれぞれについて 印は一つ)

	かなり そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
A. 2004年度滋賀県調査によると、県内の公立文化ホールは47館と、人口比で全国平均の約2倍の量を誇り、それらの中核ホールであるびわ湖ホールは、世界最高水準の質の舞台芸術を提供しており、一定の文化的効果を生み出していると評価できる。				
B. びわ湖ホール開館当初の2000年度の調査では、年間運営支出額が18億円で、県内全体での経済波及効果(来場者を観光客とみなした、直接、間接の経済効果)は年間47億円とされています。このことは、一定の経済効果を生み出していると評価できる。				

<p>C. ボランティアとして普及活動を行う「びわ湖ホール劇場サポーター」は、ホール開館の3年前に発足し、2007年度までにのべ452名が、舞台芸術がもっと身近になるように活動してきました。その活動は地域社会への人々の関わりを深めるなど、一定の社会的効果を生み出していると評価できる。</p>				
--	--	--	--	--

そのようなびわ湖ホールの3種類の効果を、それぞれの効果についての県民それぞれのイメージに基づき、その多寡を比較したのが問12についての次の図である。最初のA、B、Cは、びわ湖ホールの効果として一般的なイメージを聞くものであり、その他の具体的な意見とは少し異なっている。A B Cの文化的効果、経済的効果、社会的効果については、それぞれの内容がどのようなものとして県民に理解されているかは、他の質問との総合的な分析でわかる。ここでは、経済的な効果が相対的に低いと県民が捉えているのがわかる。効果が低くてよくないと考えているのか、低くて当たり前と考えているのかはさだかではないが、それを知るには、より詳細な分析が必要である。また、Fのこれまでの運営への賛同は比較的少ないが、DやIの芸術性の高い施設としての運営であることに県民の賛同がそれなりにあるのは、予想されたことであるか、それとも予想を上回るものであるかは、Eの大衆的な施設であることへの意見との対比で注目され、それについてもさらなる分析が必要だろう。





問12 びわ湖ホールはどのような効果をもたらしているのか、また、より効果的な施設であるために、運営がどうあるべきかに関する次の意見について、あなたの考えをお聞かせください。

(AからIのそれぞれについて 印は一つ)

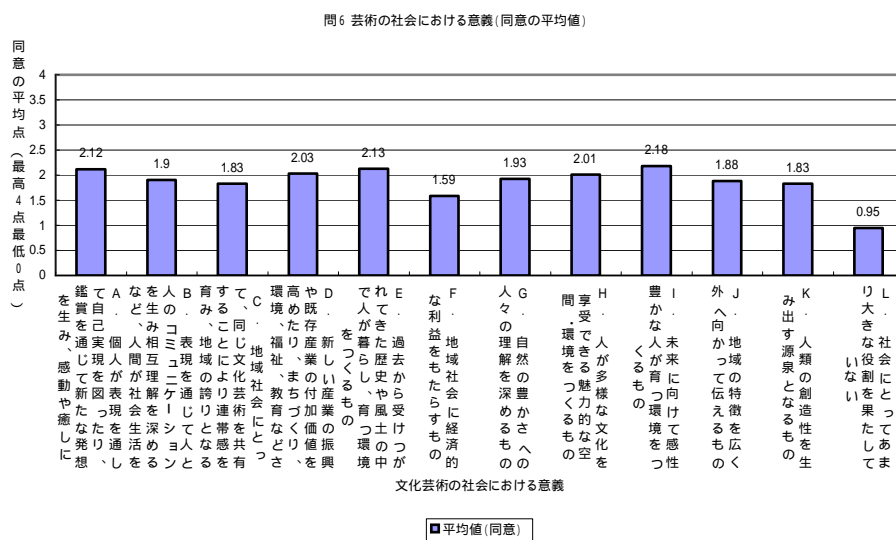
	かなり そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
A. びわ湖ホールは、文化的な効果をもたらしている (文化的効果はあなたの考えで結構です)				
B. びわ湖ホールは、経済的な効果をもたらしている (経済的效果はあなたの考えで結構です)				
C. びわ湖ホールは、社会的な効果をもたらしている (社会的効果はあなたの考えで結構です)				
D. びわ湖ホールが効果的な施設であるために、芸術性 の高い公演を行うための運営が必要である				
E. びわ湖ホールが効果的な施設であるために、親しみ やすい大衆的な公演を行うための運営が必要である				
F. びわ湖ホールが効果的な施設であるために、これま で同様の運営を継続すべきである				
G. びわ湖ホールの運営には、近畿一円の文化芸術施設 との連携を重視すべきである				
H. びわ湖ホールは、県の施設として、その運営には採 算性を重視すべきである				
I. びわ湖ホールは、県の施設として、日本の代表的な 文化芸術施設となれるような運営が重要である				

そこで、びわ湖ホールの3種類の効果が、県民にどのようなイメージで捉えられているかを知るために、文化的効果、社会的効果、経済的效果のそれぞれを被説明変数とし重回帰分析を行った結果が次の図である。そこから、満足Aが文化的効果と社会的効果に統計的に有意な影響力のある説明変数であることが分かり、満足Bが社会的効果に統計的に有意な影響力があり、満足Cが経済的效果に統計的に有意な影響力がある。これらでの満足の有無が、効果の有無を左右し、その左右する影響力は数値が大きいほど強い。この重回帰分析での説明変数として影響力を検討したのは、先に示した問10のびわ湖ホールのこれまでの役割への満足の10項目と、問6の文化芸術の社会における意義の12項目と問8の滋賀県の文化政策の重点施策についての21項目である。そこで、有意水準0.03未満で、ベータ係数0.1以上の効果の一つでもある説明変数を選び、選ばれた説明変数について再び重相関分析を行った結果が図である。統計的に有意だったものみでの分析であり、空欄は統計的に信頼できないので数値を記していない。マイナスは質問の関係での逆方向の影響と考えればよい。これらの説明変数で、文化的効果については24.3%、経済的效果については16.9%、社会的効果については20.4%の説明力(R二乗)がある。加えて、ここで用いた問6と問8の頻度分析の結果も参考に示す。

	文化的効果	経済的効果	社会的効果
Q6A．個人が表現を通して自己実現を図ったり、鑑賞を通じて新たな発想を生み、 感動や癒しによって明日への生きる活力を生み出すもの	0.156		
Q6D．新しい産業の振興や既存産業の付加価値を高めたり、まちづくり、環境、 福祉、教育などさまざまな分野との関わりにおいて、地域に活力を与えるもの		0.141	0.147
Q6I．未来に向けて感性豊かな人が育つ環境をつくるもの	0.138		
Q6K．人類の創造性を生み出す源泉となるもの			0.145
Q8A．県民が行う文化芸術活動に対する資金面での支援		0.165	
Q8B．芸術文化祭をはじめ文化芸術活動の発表の場の提供や、文化芸術活動への 県民の参加と交流の促進		-0.115	-0.117
Q8K．びわ湖ホールにおける国際的水準の舞台芸術の創造と発信			0.152
Q8Q．実験的な文化芸術活動への支援		0.151	
Q8R．国際文化交流の促進		-0.209	-0.123
Q8U．文化財の調査と保存管理や整備の推進		0.155	
Q10 満足 A．質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会を県民に提供するところ	0.197		0.130
Q10 満足 B．県民が音楽や演劇などの文化芸術活動を発表するところ			0.140
Q10 満足 C．プロの歌手や劇団が公演を行うところ		0.144	

満足のA、B、Cでの数値が示すように、質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会を提供するところとしてのびわ湖ホールへの満足の0.197から、その満足が県民に文化的効果をもたらす傾向にあると評価できる。また、プロの歌手や劇団が公演を行うところとしての県民の満足の0.144から、その満足が経済的効果をもたらす傾向にあると評価できる。さらに、びわ湖ホールの社会的効果についてはAの0.130とBの0.140から、県民が音楽や演劇などの文化芸術を発表する機会の提供が県民の満足につながり、その満足が質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会の提供とともに実現できるなら、県民への社会的効果をもたらされる傾向にあると評価できる。県民の文化的効果のイメージは、満足Aに加えて問6のAとIにかかわり、経済的効果は、満足Cに加えて、図が示す問6と問8の多くの項目に関係し、社会的効果のイメージは、満足AとBに加えて、図が示す問6と問8の多くの項目に関係する。そこからは、それぞれの効果が県民にどのようにイメージされているかが分かり、それぞれの効果を目指す施策展開の指針が得られる。参考となる問6と問8への回答の分析は次のようなものである。

(1) 問6について



文化芸術に関わる政策においては、予想されることではあるが、県民は文化と聞けば歴史的な環境に目が向く傾向にあることを考慮しておく必要があるだろう。そのことはEに表れている。しかし、びわ湖ホールの評価についてより重要なのは、そのような歴史的環境も含めて、Iの豊かな感性やAの感動を生むような環境など、精神的なものへの貢献に意義があると思われるっており、これに対して、Fの経済的な意義はさほど重視されないことである。その意味では、びわ湖ホールの経済的効果を強調する方向は、さほど説明責任を果たすものとはならないかもしれない。もっとも、運営における経済効率については、他の質問結果にも表われるように、県民は注目していると言えるだろう。

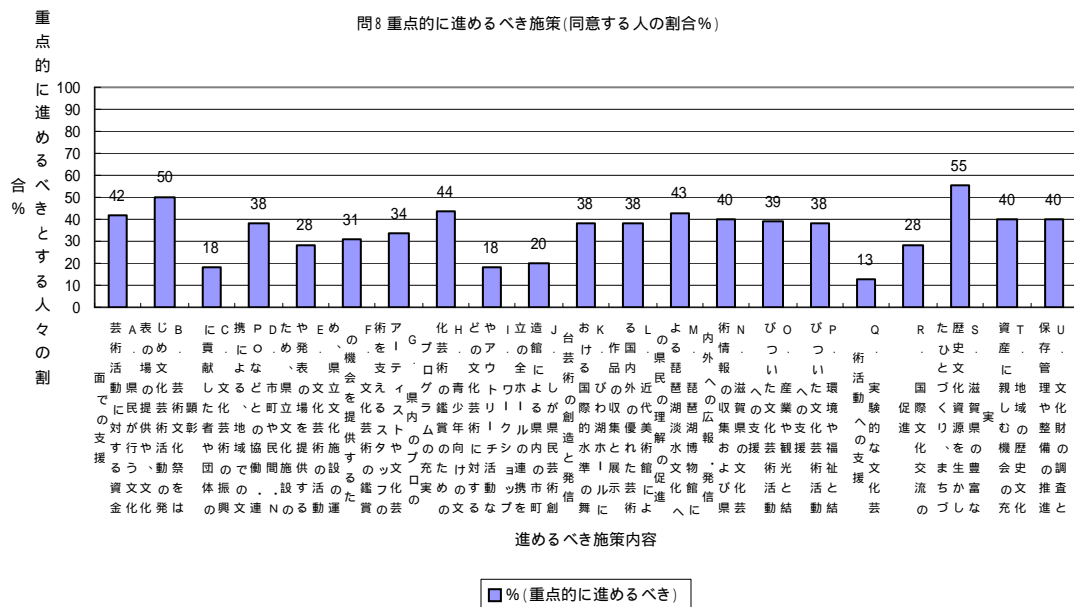
**問6** 文化芸術の社会における意義について、次の意見をどのように思いますか。あなたの考えをお聞かせください。

(AからLのそれぞれについて 印は一つ)

	かなり そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
A. 個人が表現を通して自己実現を図ったり、鑑賞を通じて新たな発想を生み、感動や癒しによって明日へ				

の生きる活力を生み出すもの				
B. 表現を通じて人と人のコミュニケーションを生み相互理解を深めるなど、人間が社会生活をする上で欠くことのできないもの				
C. 地域社会にとって、同じ文化芸術を共有することにより連帯感を育み、地域の誇りとなるアイデンティティを形成する核となるもの				
D. 新しい産業の振興や既存産業の付加価値を高めたり、まちづくり、環境、福祉、教育などさまざまな分野との関わりにおいて、地域に活力を与えるもの				
E. 過去から受けつがれてきた歴史や風土の中で人が暮らし、育つ環境をつくるもの				
F. 地域社会に経済的な利益をもたらすもの				
G. 自然の豊かさへの人々の理解を深めるもの				
H. 人が多様な文化を享受できる魅力的な空間・環境をつくるもの				
I. 未来に向けて感性豊かな人が育つ環境をつくるもの				
J. 地域の特徴を広く外へ向かって伝えるもの				
K. 人類の創造性を生み出す源泉となるもの				
L. 社会にとってあまり大きな役割を果たしていない				

(2) 問8について



先の問題6と同様に県の文化政策としては、Sの歴史文化資源への注目が多いのは理解でき、また、Bに表われるような県民の参加志向の一般的傾向も予想されるところである。びわ湖ホールの評価もそれらの県民の一般的な認識の中にあることは事実であるが、びわ湖ホールにとって重要なことは、Kの国際的な水準の舞台芸術の創造が、県の文化政策全体の中で、相対的に低い地位にあるわけではないことである。滋賀県と言えば琵琶湖との県民の強い意識がある中でMの琵琶湖博物館からは多少の遅れはとるものの、重点的な施策推進での、Kへの県民の同意は、予想以上に多いと評価できるかもしれない。この点については、さらに詳細に検討する必要があるだろう。

**問8** 滋賀県の文化政策において、次のような様々な施策を行うことが考えられますが、県が中心となって、重点的に進めるべきと、あなたが考えるものをすべてお選びください。  
( 印はいくつでも可の複数回答形式 )

	重点的に進めるべき
A. 県民が行う文化芸術活動に対する資金面での支援	
B. 芸術文化祭をはじめ文化芸術活動の発表の場の提供や、文化芸術活動への県民の参加と交流の促進	
C. 文化芸術の振興に貢献した者や団体の顕彰	
D. 市町や民間・NPOなどとの協働・連携による、地域での文化芸術活動の支援	
E. 文化芸術の活動や発表の場を提供するため、県立文化施設の運営を通じたハード面の充実	
F. 文化芸術の鑑賞の機会を提供するため、県立文化施設の運営を通じたハード面の充実	
G. 県内のプロのアーティストや文化芸術を支えるスタッフの育成や支援	
H. 青少年向けの文化芸術の鑑賞のためのプログラムの充実	
I. ワークショップやアウトリーチ活動などの文化芸術に対する理解を深めるための普及事業の充実	
J. しが県民芸術創造館による県内の市町立の全ホールの連携を深める役割の充実	
K. びわ湖ホールにおける国際的な水準の舞台芸術の創造と発信	
L. 近代美術館による国内外の優れた芸術作品の収集と展示	
M. 琵琶湖博物館による琵琶湖淡水文化への県民の理解の促進	

N. 滋賀県の文化芸術情報の収集および県内外への広報・発信	
O. 産業や観光と結びついた文化芸術活動への支援	
P. 環境や福祉と結びついた文化芸術活動への支援	
Q. 実験的な文化芸術活動への支援	
R. 国際文化交流の促進	
S. 滋賀県の豊富な歴史文化資源を生かしたひとづくり、まちづくりの推進	
T. 地域の歴史文化資産に親しむ機会の充実	
U. 文化財の調査と保存管理や整備の推進	

#### 4. びわ湖ホール運営の評価「県民はびわ湖ホールの運営をどのように考えているのか」 (評価結果)

びわ湖ホール運営についての滋賀県民の見方には、高度な芸術を志向する運営を重視する傾向と、民間の採算志向の運営を重視する傾向の、二つの要因が交差しているところに特徴がある。そのような特徴は、県内の文化ホールの運営について、民間機関と公的機関のいずれが担うのが良いと考えるのかの違いと連動する。民間機関による文化ホールの運営を好む者ほど、びわ湖ホール運営においても民間機関の運営を求める傾向が、予想どおり確認できるのに対して、高度な芸術志向をびわ湖ホール運営に求める者ほど、公的機関による文化ホールの運営を好む傾向にある。そこには、プロの歌手や劇団の公演を通じて、質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会を県民に提供し、音楽や演劇の楽しさを伝え、県民の文化や芸術を見る目を育てるような効果を、びわ湖ホールが滋賀県民にもたらすには、公的機関による運営を重視することが比較的に必要なとの県民の考えが見られるとも言える。

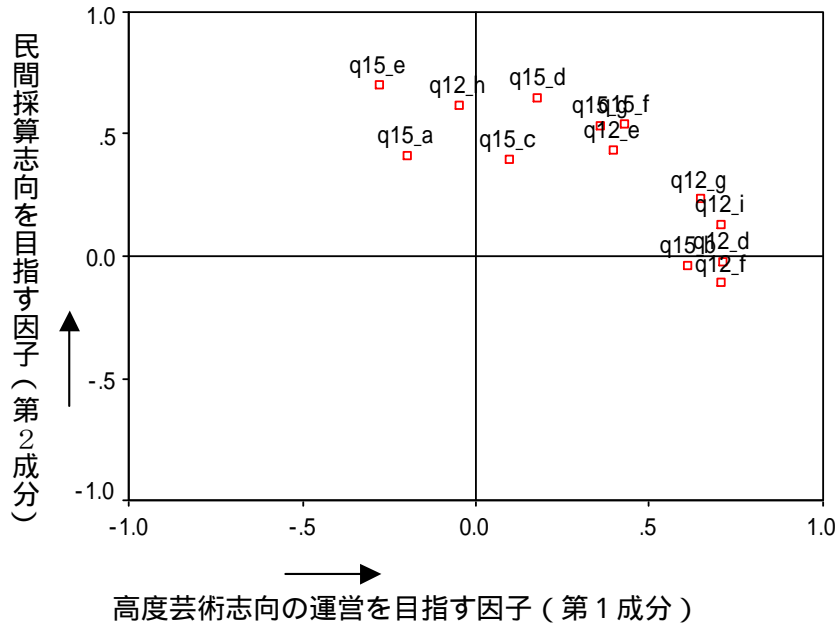
さらに、県民がびわ湖ホールの社会的な効果がありと考えるときには、公的機関による文化ホールの運営を好むこととの結びつきが強いという特徴が注目される。そこには、社会的効果が、ボランティア活動などを通じての地域社会とのかかわりを深める施策展開や運営方針とは異なり、もう少し踏み込んだ方針が求められることが示唆されている。ここでは、高度な芸術への志向を重視する運営と、民間の採算志向重視の運営のバランスに役立つような、問15のF. 大学など文化や教育に関わりのある機関と連携して、効率的、

効果的な施策を行うことや、G. ボランティアなどと協力し、効率的、効果的な施策を行うこと、および問12のE. びわ湖ホールが効果的な施設であるために、親しみやすい大衆的な公演を行うための運営などが有益であろう。それらに加えて、高度な芸術志向に比較的役立つ問15のB. 県全体の予算の中で文化芸術振興予算の占める一定の割合を確保する方向や問12のG. びわ湖ホールの運営には、近畿一円の文化芸術施設との連携を重視する方向など、ならびに、民間の採算志向に比較的役立つ、問15のA. 県立文化施設の会場使用料や入場料を上げるなど、受益者の負担割合を高くする方向、C. 企業からの協賛金や県民のみなさんから、文化芸術振興への支援金を募る方向、D. 芸術性が高く収益性の低い事業だけでなく、集客力があり収益性の高い事業もバランスよく組み合わせる事業を行う方向をも組み合わせた施策展開も必要かもしれない。

#### (分析と解釈)

そのようなさまざまな施策を、高度な芸術志向と民間の採算志向の二つの異なる要因のバランスを取りつつ展開するには、どの施策をどのような意図で重視すれば、びわ湖ホールの県民への効果が高まるかについて、そのイメージを示したのが次の図である。ここでは、びわ湖ホールの運営についての問12の6項目と問15の7項目の計13項目の因子分析により2因子を抽出している。2因子は、問12のDとIを代表とする高度な芸術志向の運営を目指す横軸の第1成分と、問12のHと問15のEを代表する民間の採算志向の運営を目指す縦軸の第2成分の因子である。この2軸において、これらの13項目は、右下から左上への直線に沿って並んでおり、それは、問12のFに代表されるこれまでの運営の継続から、問15のEに代表される行政が行う施策の縮小への配列となっている。県民が高度の芸術志向がこれまでの運営と理解し、これに対して行政の関与の縮小が民間の採算志向の運営と理解する滋賀県民の意識のあり様から、13項目の施策をどのように展開することで、バランスの取れた運営を行えるかをうかがい知ることができる。

びわ湖ホールの運営についての県民の意識の特徴を示す 2 因子  
 ( 因子分析のバリマックス回転での因子負荷量のプロット図



回転後の成分行列

	成分	
	1	2
Q12_D	.710	-2.089E-02
Q12_E	.398	.434
Q12_F	.707	-.110
Q12_G	.647	.233
Q12_H	-4.786E-02	.616
Q12_I	.704	.128
Q15_A	-.200	.414
Q15_B	.610	-4.014E-02
Q15_C	9.560E-02	.399
Q15_D	.179	.652
Q15_E	-.277	.705
Q15_F	.428	.545
Q15_G	.360	.537

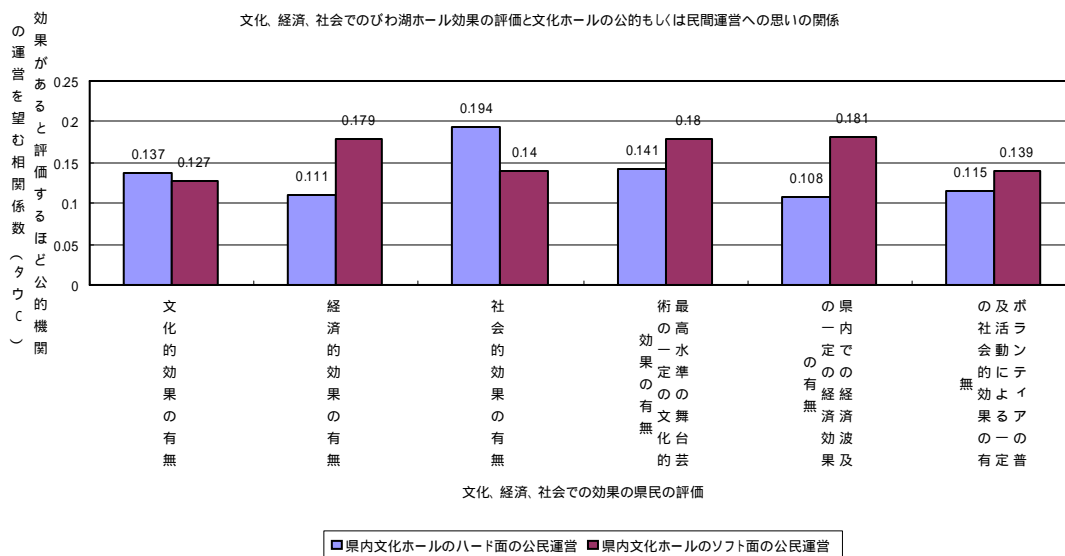
因子抽出法: 主成分分析  
 回転法: Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法  
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

- ・びわ湖ホールの運営についての問 1 2 の 6 項目と問 1 5 の 7 項目の計 1 3 項目の因子分析による 2 因子の抽出
- ・第 1 成分の代表的な因子は Q12\_D と Q12\_I
- ・第 2 成分の代表的な因子は Q12\_H と Q15\_E
- ・これまでの運営継続 ( Q12\_F ) から、行政が行う施策の縮小 ( Q15\_E ) へ回帰直線上に各項目がある
- ・両成分を持つ運営は Q12\_E、Q15\_F、Q15\_G が代表的であり、高度芸術志向に近い Q12\_G、Q15\_B と民間採算志向に近い Q15\_A、Q15\_C、Q15\_D がある

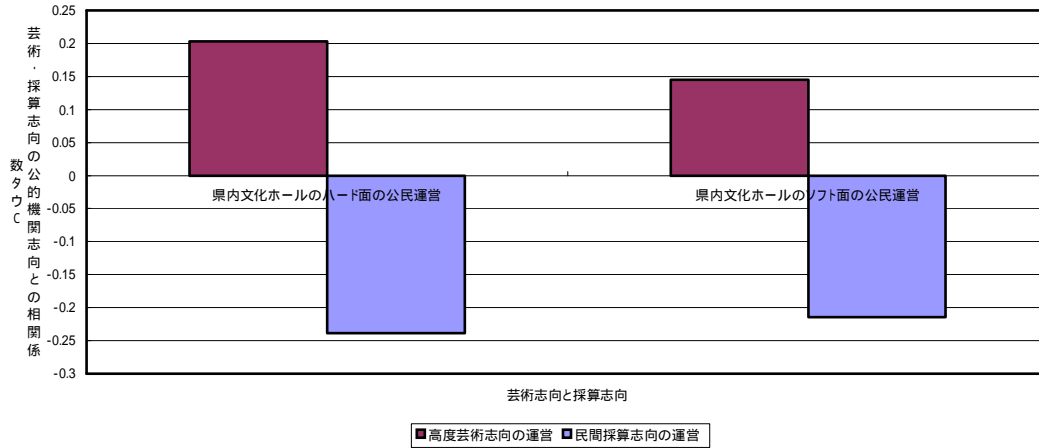
この因子プロット図に加えて、次の最初の分析結果は、びわ湖ホールの文化的効果と経済的効果と社会的効果 ( 問 1 2 の A、B、C ) が、文化ホールの公的もしくは民間運営との関係を県民がどのように関係付けているかを示している。ハード面での運営を公的機関



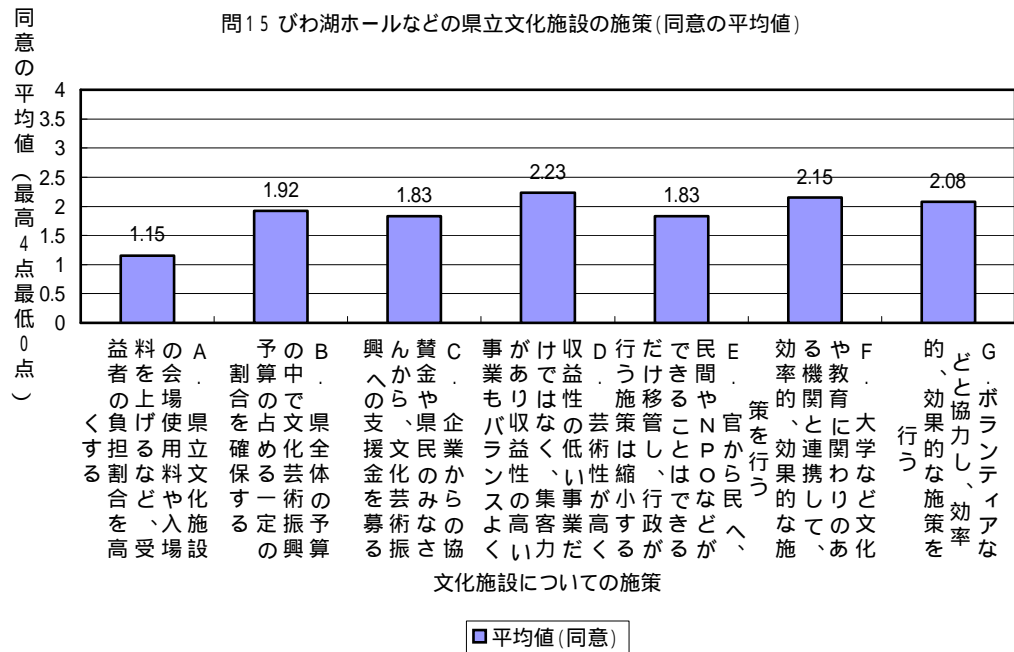
が担うのを良しとするほど、社会的効果に役立つと考える傾向が目立つことと、ソフト面での運営を公的機関が担うのを良しとするほど、経済的效果に役立つと考える傾向が目立つことが注目される。また、調査結果に見られる文化的、経済的、社会的効果（問13のA、B、C）との関係では、そこでの効果を認める者ほど、ソフト面での公的機関の運営がさらに役立つと考える傾向がありそうである。第二の図は、民間機関による文化ホールの運営を好む者ほど、びわ湖ホールの運営においても民間機関の運営を求める傾向が、予想どおり確認できるのに対して、高度な芸術志向をびわ湖ホールの運営に求める者ほど、公的機関による文化ホールの運営を好む傾向にあることを示している。その傾向は、ハード面での運営でも、ソフト面での運営でも同様に確認できるが、ハード面での傾向の方がソフト面での傾向より比較的顕著である。ここでは、続けて参考になる質問についての分析結果の図も示しておく。



高度芸術志向と民間採算志向のびわ湖ホール運営の違いによる県内文化ホールの運営の担い手としての公的機関志向と民間機関志向の違いとの関係



(1) 問15について



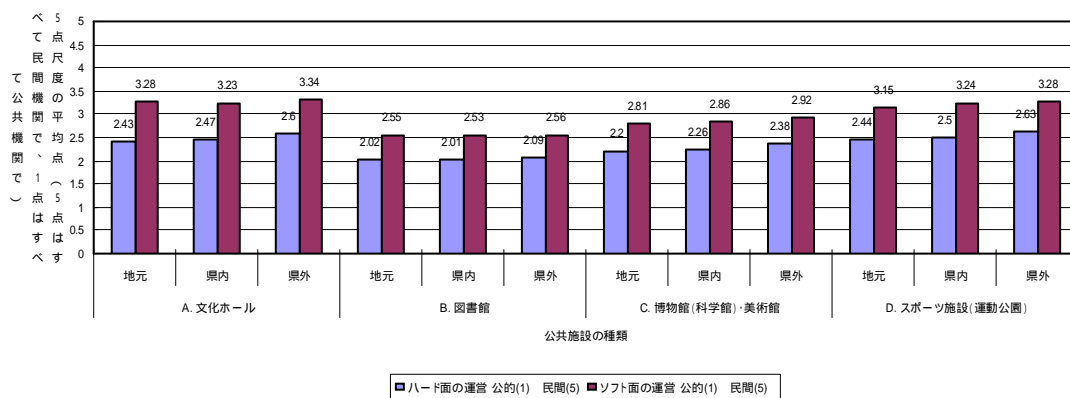
問15 びわ湖ホールをはじめとする県立文化施設の運営の効率化のための次の意見について、あなたの考えをお聞かせください。

(AからGのそれぞれについて 印は一つ)

	かなり そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
A. 県立文化施設の会場使用料や入場料を上げるなど、受益者の負担割合を高くする				
B. 県全体の予算の中で文化芸術振興予算の占める一定の割合を確保する				
C. 企業からの協賛金や県民のみなさんから、文化芸術振興への支援金を募る				
D. 芸術性が高く収益性の低い事業だけではなく、集客力があり収益性の高い事業もバランスよく組み合わせさせて事業を行う				
E. 官から民へ、民間やNPOなどができることはできるだけ移管し、行政が行う施策は縮小する				
F. 大学など文化や教育に関わりのある機関と連携して、効率的、効果的な施策を行う				
G. ボランティアなどと協力し、効率的、効果的な施策を行う				

(2) 問14について

文化やレクリエーションのための公共施設の運営の担い手



**問 14** 滋賀県内には多くの文化やレクリエーションのための公共施設があります。その運営を、公的機関がすべてを引き受けるのがいいのか、民間機関（公的機関以外）が担うのがいいかについて、あなたの意見をお聞かせください。次の地元、県内、県外のそれぞれの公共施設について、施設の管理などのハード面の運営と、事業活動に関わるソフト面の運営に分けてお答えください。すべて公的機関が担うのがよいと思う場合を1点とし、すべて民間機関が担うのがよいと思う場合を5点とし、その中間を3点とする尺度で、お答えください。（各地域のAからDについて、ハードとソフトそれぞれ1、2、3、4、5、のいずれかに 印）

		ハード面の運営 公的(1) 民間(5)	ソフト面の運営 公的(1) 民間(5)
A. 文化ホール	地元	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	県内	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	県外	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
B. 図書館	地元	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	県内	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	県外	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
C. 博物館(科学館)・ 美術館	地元	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	県内	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	県外	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
B. スポーツ施設 (運動公園)	地元	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	県内	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	県外	1 - 2 - 3 - 4 - 5	1 - 2 - 3 - 4 - 5